

日本医療検査科学会 科学技術委員会
2023 年度第 1 回委員会議事録

1. 日時：2023 年 4 月 15 日（土）16:00～17:10
2. 場所：東北大学医学部 星陵会館 2 階大会議室 B
および ZOOM によるオンライン参加
3. 出席者（敬称略）：清宮、藤本、神山、田中、川崎、汐谷、山内、柏木、御子柴、
金沢、青柳、山本裕、和田、菊地、関田、山口、末吉、春田、藤田、新井、角田、
姫野、黄江、三宅、戸枝、中川、飯島、桑、大久保、澤部、山本慶、片岡、三村、
外園
欠席者（敬称略）：篠原、高崎、沼田、山下、緒方、岡田、倉村、大澤
4. 配布資料：
資料 1：2023 年度科学技術委員会委員名簿
資料 2：第 23 回科学技術セミナーアンケート
資料 3：第 21 集科学技術マニュアル
資料 4：第 22 集科学技術マニュアル企画案
資料 5：第 22 集以降のマニュアル企画案
資料 6：2023 年度科学技術委員会活動計画
資料 7：科学技術委員会 内規
5. 議事：
 - (1) 2023 年度科学技術委員会委員について（資料 1）
2023 年度からの執行部の人事体制、および新規委員、退任委員について藤本先生より報告があった。また、退任委員の 3 名（大久保先生、澤部先生、山本慶先生）が新たにアドバイザーとして就任いただくことになった。
 - (2) 第 23 回科学技術セミナーについて（資料 2）
資料をもとに澤部先生よりアンケート集計の結果について報告があり、どの講義も概ね良好な回答を得た旨、説明があった。
 - (3) 第 21 集科学技術マニュアル刊行について（資料 3）
編集幹事の藤本先生から、執筆いただいた先生方に改めて謝意が述べられた。
 - (4) 第 24 回科学技術セミナーについて

学会最終日（10月8日）13時～15時20分の枠で実施予定。司会は汐谷先生、戸枝先生、講師は藤本先生、関田先生、角田先生、山本裕先生、姫野先生の5名にお願いすることとした。8月末くらいに講義資料をまた、9月中旬を目処にスライドの提出を求められる予定なので講師の先生方は準備をお願いします（見本を後日、藤本先生から配信）。

（5）第22集科学技術マニュアル作成案について（資料4）

資料をもとに汐谷先生から第22集マニュアル（案）の説明があった。第1章（極端値とパニック値の定義）、2章（検査結果の変動要因）として総論的内容を、第3章を各論として各検査項目に記載する構成。神山先生から、パニック値や極端値の定義および両者の違いを明確する必要性と記載対象項目について、本当に必要な項目を洗い出す作業が必要である旨、意見が出された。川崎先生からはすでに発刊されている書籍との差別化について質問があった。これに対しては汐谷先生から、今回の企画が、現場の技師がすぐ見て対応可能な、従来のものよりも一歩踏み込んだ内容の構成にすることで差別化を図りたい旨、説明があった。山内先生からは、現場での運用面についての内容や、臨床との連携例など現場での事案を含めた内容にしてはどうかとする意見が出された。総論（1,2章）は汐谷先生、山内先生で、3章の各論については他委員において2～3項目を担当して執筆をお願いすることとした。各論の雛形は汐谷先生からフォームを参考とする。

（6）第22集以降のマニュアル企画について（資料5）

資料に基づきこれまでに挙がっているテーマについて清宮委員長から説明があった。桑先生からは、電子カルテ上に記載された内容を用いた、臨床と検査データの妥当性について取り上げた内容をテーマしてはどうかとする意見が出た。次回、テーマを決める。

（7）2023年度科学技術委員会活動計画について（資料6）

事務局より資料をもとに2023年度の活動計画について説明があった。

（8）その他 科学技術委員会 内規について（資料7）

ここ数年、新旧委員の入れ替えもあったことからあらためて本会の内規が資料として事務局より提示され、13条の委員会の欠席に関する文言の周知がなされた。また、現状の内規には旧学会名の使用などが散見されることから、文言修正の必要性がある旨提示され、次回までに修正案の策定を行うこととした。

最後に退任される三村先生より挨拶があった。

以上
(記録：外園)